

マネージャーのため のヒント:COVID-19 禍の中での業績評価 について



COVID-19禍がもたらす様々な課題に直面している多くの職場では、従業員の業績評価の方法について再検討が行われています。管理職の立場にある方は、以下の推奨事項をご検討ください。

期待値を調整する

私たちは皆、世界的な危機のさなかで仕事をしており、それが身体と心の健康に明らかな影響を与えています。多くの 従業員は新しい環境で仕事に取り組み、新しい役割を果たしている人も多くあります。子どもたちや高齢者のケアを 担っている場合も、新たな経済的ストレスに直面している場合もあるでしょう。大切な人が高いリスクを負っていたり、 病気になっていたり、亡くなってしまったケースもあれば、本人が病気になっている場合もあるかもしれません。

業績評価にあたっては、こういった事柄をすべて考慮の対象にしなければなりません。焦点を生産性以外の要素へと切り替えるように努め、取り組み方、つながり、すこやかさをサポートしましょう。

業績評価の実施に先立ち、自分の目標を考える

業績評価を実施している企業もありますが、廃止した企業もあります。職場にとって最も意義があるのは何かを決定するにあたり、まず、自分自身の目標について熟考してみましょう。また、こうした評価に対して従業員がどのように反応するかについても考慮してください。

例えば、これらの評価は、現時点ではもはや実施されていない昇給や昇進に結びついていませんか。相応のメリットを提供することなしに、プレッシャーと懸念のみを作り出してしまうリスクはないでしょうか。あるいは、評価は、従業員がそれぞれの目標を明確に認識し、それに取り組むためのガイダンスを会社が提供する手段となっているでしょうか。評価の実施が、正常感とサポートを維持するために役立つでしょうか。

業績評価を行うかどうかにかかわらず、定期的に従業員の状況を確認しましょう。現在ではこのようなつながりの機会が、通常にも増して重要となっています。

質を重視した会話によるアプローチを検討する

従業員の業績評価は、様々な方法で調整することができます。

- 多くの学校は、成績評価を「可/否」の二択にシフトしています。企業での業績評価にも、調整が必要かもしれません。これまでよく使われていた評価基準や数値を見直してみましょう。従来の基準は、現在の新しい状況では意味をなさない目標に依存していないでしょうか。COVID-19禍以前に従業員が自身に設定した目標は、現在も引き続き適切でしょうか。そうした目標は、修正するか、一時保留にすることもできます。
- 多くの企業が、数値による評価を取りやめています。数値の代わりに、よりニュアンスをこめた言葉で評価を行うことができ、状況の変化も考慮に入れることができます。
- 従業員からもインプットを得ましょう。何に集中したいか、どのような援助が必要かなど、従業員自身の考えを提出してもらいます。従業員は、自分の達成した事柄に満足を感じているでしょうか。新しい状況に適応するために必要なツールやリソースで、会社から提供できるものはないでしょうか。プロジェクトや取り組み中のタスクにモチベーションを持つためには、何が必要なのでしょう。
- 必要なフィードバックの提供は重要ですが、業績評価の中に従業員の優れた実績も含めることを忘れないようにしましょう。特に、現在の状況にあって特別に価値ある資質、つまり柔軟性、レジリエンス、他者のサポートといった 資質を高く評価しましょう。

本プログラムは、応急治療や緊急治療が必要な際にはご利用いただけません。緊急の場合、米国内の場合は911に、米国外にお住まいの場合は該当地域の緊急通報番号に連絡するか、または最寄りの緊急治療室に行ってください。本プログラムは、医師やその他の医療従事者の治療に代るものではありません。利益相反にあたる可能性があるため、Optumもしくはその関連機関、または利用者が本サービスを直接または間接的に受けている機関(例えば雇用主または医療保険プランなど)を相手取った法的手段に関わる可能性のある問題については、法律相談を提供することができません。本プログラムとそれを構成するコンポーネント、特に16歳未満のご家族の方を対象としたサービスは、一部の地域ではご利用いただけない場合もあり、内容は変更される場合があります。従業員支援プログラム(EAP)のサービス提供者の経験および教育のレベルは、契約要件またはその国の規制要件により異なります。プログラムには除外事項および制限事項が適用される場合があります。